

家庭科における生活創造能力の育成を目指した授業実践

創造と自己解放の家庭科教育(4)

Education in Domestic Science for Creation and Self-Liberation 4

古田典子¹⁾・夫馬佳代子²⁾

FURUTA Noriko, FUMA Kayoko

キーワード： 生活創造・衣服選び・自己表現

Key words: creating one's own living, selecting clothing, self-expression.

1. はじめに

中学校家庭科では、平成10年改定の中学校指導要領「A 生活の自立と衣食住」の「(3) 衣服の選択と手入れ」の指導事項に「ア 衣服と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着用や個性を生かす着用を工夫できること」が記載されているが、[目的に応じた着用][個性を生かす着用]について学ぶ意味を中学生の中でどのように育てるかについては、「TPO」と「個性」という相反する概念と、「個性」という曖昧なキーワードを含み、捉え方が混沌としているのが現状と思われる。そこで、新たな角度からこの題材に取り組み、一案を提示することを試みる。

本報では「個性を生かす」ことが一つの課題であるこの題材を、家庭科における生活創造力の育成を目指した研究の実践授業として位置付ける。具体的には、市販の衣服を着用することが困難な衣生活を送る立場から考えることにより、衣服による「個性の表現」とは何かが中学校の生徒にも捉えることができ、この体験が生活創造の視点にも生かされるのではないかと考える。

ところで、高齢者や体に障害を持つ人々も快適に着用できる衣服については、すでに中学校教材でも扱われている。「ユニバーサルファッション」という用語は、例えば教科書「技術・家庭 家庭分野」(開隆堂 2001)の指導書である「技術・家庭学習指導書[家庭分野]実践編(開隆堂 2001)において題材「自分らしく清潔に着る」の中に「ユニバーサルデザイン」の説明と共に記載がある¹⁾。そこには「『ユニバーサルファッション』は体の障害の有無や体形、年齢にかかわらずおしゃれを楽しむというファッション分野でのバリアフリーを目指している。」と記載される。事例として「一つのサイズで幅広い体形に対応できるワンピース」が挙げられる。しかし、ここでは指導者側の参考程度に記載されているのみである。

本研究ではこうした視点をに生徒が体験することにより、自らが衣服を考案する生活創造の実践を取り入れた授業を行う。「衣服」の側面から誰にとっても豊かで快適な生活を見つめるために、まず自分自身の衣服について見つけ、さらに自分だけではなく周りの人々の衣服にも目を向け、誰にとっても楽しめるファッションについて考えることにより「個性を生かす着用」を主体的に追究できると考える。

なお、本報では、授業実践の内容と生徒の活動記録から見られる学びの成果について報告し、授業分析結果については次報で述べる。

2. 研究方法

(1) 調査対象及び調査期間

授業実践は、岐阜市内のK中学校の1年生6クラス(232人)を対象に4時間の授業を実施した。調査期間は、平成15年9月から11月にかけての2ヶ月間、授業実施回数は13回(2時間続き)である。

1) 不破中学校

2) 岐阜大学教育学部家政教育講座

(2) 授業の構想

1) 題材Ⅰ「自分らしい着方」

1時間目(1/2) 「個性とTPOを考えた衣服選び」(資料1 ①)

本時「個性とTPOを考えた衣服選び」の学習活動を資料1 ①に示す。授業前の課題として、授業内容をより具体的に日常生活の中で生かせることを意図し、事前に各自で想定した目的・場所にあった私服を選び授業に持参、着用することとした。授業の導入段階で、同一目的の私服を着用した生徒と教師がグループとなり「着用目的」が同一でも、衣服による「表現」は様々であり、「個性」が見られることに気付くことを意図した。授業の展開段階はTPOと「個性」との関係を生徒の着装した私服をもとに「形態」「色」「柄」「素材」「着方」「雰囲気」などをキーワードに交流・相互評価を通して学ぶ。

2時間目(2/2) 「相互交流から探す私に似合う着方」(資料1 ②)

本時「相互交流から探す私に似合う着方」の学習活動を資料1 ②に示す。前時に着用したTPOを考えた私服の写真をもとに導入段階で客観的に自己を見る。展開段階で、相互交流で得たアドバイスをもとに、より「自分らしさ」を表わせる衣服での表現方法についてキーワードをもとに考える。実習授業とし、写真にトレーシングペーパーを重ね衣服の新たな組み合わせについて検討、発表する。この授業を通して自分を見つめ、「自己表現」を工夫し、さらに互いの良さを評価、認め合うことを意図している。

2) 題材 「周りの人々の衣服」

1時間目(1/2) 「だれでも着易い衣服とは」(資料1 ③) *報文中の一連の授業経過の分析では3時間目

本時「だれでも着易い衣服とは」の学習活動を資料1 ③に示す。題材 の1・2時間では「自己表現」の視点から衣服の役割について考えたが、題材 では、誰でもが自由に「自己表現」を楽しめるのか、この点を課題とし市販衣服の着用が困難な高齢者や障害を持つ人々の衣生活について目を向ける。「だれでも着易い衣服」を考えるため、腕や肩が動かせない状態を模擬体験し4種類の市販衣服を着用する場合の問題点について検討する。こうした体験を通して、「衣服の役割」に新たな要素が存在することに気付くことを意図している。

2時間目(2/2) 「発展 快適な衣服を考案してみよう」(資料1 ④) *報文中の一連の授業経過の分析では4時間目

本時「発展 快適な衣服を考案してみよう」の学習活動を資料1 ④に示す。題材 1時間目の模擬体験による衣服着用の問題点をもとに着易さを課題として、他者の立場を考えた「快適な衣服の考案」に取り組む。自らが相手の立場に立ち創造することにより、衣服の創造のみでなく、生活創造能力や心の育成につながることを期待する。

(3) 授業の観察及び分析方法

1) 事前調査カード

事前調査項目としては、「私服の選び方」「自分に似合う色柄」「家族からのアドバイス」「よく着る衣服と着たい衣服のイラスト」「高齢者や障害者とのかわり」「バリアフリーの用語の意味」などの項目がある。

2) 学習プリント① (資料2)

「自分らしく着よう」と題し、1時間目の授業前に「自分らしい衣服」の衣服選択理由及び着装目的、着装予定のイラスト、似合うと考える理由について問う。

3) 学習プリント② (資料3)

「自分らしく着よう」と題し、衣服の相互交流の記録を記入する形式。「友人の衣服から取り入れたい着方やデザイン」と「他者からのアドバイスの記録」覧があり、最後に課題として「自分らしさは、衣服のどのようなところで表現できるか」について自由記述をする。

4) 学習プリント③ (資料4)

学習の振り返りとして4つの評価の観点で自己評価を行う。評価の観点は「自分らしさの表現」「今後の生活の中での実践」「学習活動」「社会生活を考えた衣服選択」の4点である。

5) 学習プリント④ (資料5)

題材 の宿題として、「周りの人々(家族)」からの聞き取り調査。内容は高齢者や周りの人々の衣服選択の条件に

ついて記入する。

6) 学習プリント⑤ (資料6)

「周りの人々の衣服」と題し「Tシャツ」「前開きシャツ(ボタン)」「ポロシャツ」「ハイネックシャツ」各々の着装模擬体験の記録と感想。着装が困難な場合は、問題点とその理由について記入する。

7) 学習プリント⑥ (資料7)

4時間目に取り組む授業の障害者の衣服の考案・改良・工夫点について記録し、授業の感想について自由記述をする。ユニバーサルデザインなどの用語に関する知識も問う。

8) 配布資料

障害者の手記『装いは自己表現』 Bさん女性の手記の内容は「『装い』は私にとっては、健常者と同じ土壌に立っていると感じるために欠かせないものです。障害があるから、車イスを使用しているからといって洋服を選択する幅が狭められるということは体が不自由であるだけでなく、本人が元から持っているセンスを活かす機会も奪ってしまうということになってしまいます。私は専門家の方に相談したために、選択の幅が広がりました。専門家の方々のアドバイスは、洋服選択だけでなく、障害者などの可能性を広げることにつながります...」という問題提起であり、4時間目の授業初めに読むことにより衣服の改良に取り組む目的が明確となり、主体的に意欲を持ち課題に取り組むことをねらいとして配布した。

3. 結果及び考察

(1) 授業内容(1時間目) 「個性とTPOを考えた衣服選び」

1) 授業構想(資料1 ①参照)

2) 活動内容と事例

①目的と場所を設定した衣服の着装(学習プリント①活用)

生徒は授業前に、自分で「最も自分らしい」「自分に似合う」「気に入っている」と考える私服を選択し、生活の中でのその衣服の着用場面について考えてくる。学習プリント に、衣服の選択理由を記載する。

本時の授業では、選択した衣服を着用し、導入段階では各自の衣服の着用場面について紹介する。表1は、服を選んだ目的や着用場面を分類したものである。選択した私服の着用場面としては、「遊び」「スポーツ」「買物」の順となり、中学生の日常行動に着用する衣服が多いことがわかる。

表2に示す「衣服を選んだ理由」としては「機能」が80人で最も多く、次いで「感情/気分」「色柄」「形態」となっている。「機能」を重視した衣服の選択は、活動的な中学生の行動を反映したものと考えられる。「服の気に入っているところ」は、衣服の外観を捉えた「色柄」が最も多く、次いで「機能」「形態」となる。このことから「自分らしさ」を「色柄」で表現する生徒が多い傾向が見られる。

表1 服を選んだ目的と場所

	1遊び	2スポーツ	3外出	4旅行	5食事	6普段	7勉強	8買物	9その他	総計
人数	93	59	24	8	2	1	3	36	4	232

表2 学習プリント1 服を選んだ理由/服の気に入っているところ

	1機能	2色柄	3形態	4感情	5社会	6習慣	7センス	8TPO	
服を選んだ理由	80	20	20	31	8	12	16	18	
服の気に入っているところ	36	63	34	15	4	1	23	3	(人数)

②衣服のTPOと社会生活

授業の展開段階とし、着用した衣服の目的に分かれてグループをつくり、互いの選択した衣服について観察した。その結果、着用目的が同一でも衣服による表現は異なることについて意見交流し、衣服の着用目的による共通点と、

各自の衣服のオリジナルな点を個性として捉えた。着用目的による各自の私服の共通点としては「機能」「形態」が多く、異なる点としては、「色」「柄」「組み合わせ」と考える意見が多くみられた。ここでは、衣服の役割や要素について活発な交流がなされたが、社会生活の中でTPOを考えた「自分らしさ」を出すことは難しいとの意見が多くみられた。

衣服の交流と相互評価(学習プリント 活用)

衣服による「自分らしさ」の表現をどのように捉えたらよいか、相互交流を通してさらに深めることとした。

学習プリントには「(他の人の服の)良いと思う点」「(自分の服についての)アドバイス」「(衣服交流を通して)分かったこと」などについて、交流後に自由記述をした。

衣服の相互評価の結果は表3に示す。「他の人の衣服の良さ」は「色柄」(148人)「センス」(85人)「形態」「機能」の順に判断し、「他者から受けたアドバイス」からも、衣服の関心は「色柄」「形態」「センス」であることが分かる。ところが授業後の「衣服について分かったこと」では、「色柄」「センス」に加え、「個性」「社会性」に関する表現がみられる。日常生活における衣服の捉え方と授業内で用いられた「TPO」や「個性」という衣服の捉え方が意識されていることがわかる。

表3 学習プリント2 相互交流の結果

	1 機能	2 色柄	3 形態	4 感情	5 社会	6 習慣	7 センス	8 個性	9 TPO	
友人の服のよい点	64	148	66	2	32	0	85	1	11	
受けたアドバイス	22	98	32	0	3	0	23	1	3	
分かったこと/感想	15	89	28	22	59	1	76	71	39	(人数)

(2) 授業内容(2時間目) 「相互交流から探す私に似合う着方」

1) 授業構想(資料1 ②参照)

2) 活動内容と事例

自分らしい衣服の着装写真(着装を客観的に評価・再考)



写真1 授業風景(導入)

教材として前回の授業で撮影した生徒一人一人の写真を用意する。導入段階とし、生徒が前回の授業「自分らしく着よう(1/2時間)」を振り返り、衣服で表現できる「自分らしさ」について考え、本時の実践に意欲的に取り組むことができるようにする。以下は導入の流れである。

前時の授業「自分らしく着よう」の課題(学習プリント②)を返却し、同時に前述の各々の写真を配布する。前回の授業「自分らしく着よう(1/2時間)」の振り返りとして、「自分らしさ」のポイントが何であったかを問う。自己表現の方法として「色」「形」「素材」「着方」「雰囲気」のポイントの他に、生徒から「組み合わせ」という回答も得た。

本時の課題確認のため、授業者の写真を拡大したものを貼り、衣服の気に入っている箇所、友人の良い箇所、友人からのアドバイスについて示した。(写真1) 上述の「自分らしさ」のポイントを用いてさらに自己表現を高めるため授業者の工夫について話し合い、衣による自己表現の課題につなげた。

②トレーシングペーパーを用いたデザイン



写真2 授業風景

(トレーシングペーパーを用いたデザイン)

展開では、自分の衣服を見つめなおし様々な工夫を考える実践活動を通し、自分らしさについて追究することにする。以下は展開についての流れである。展開では学習の記録として、学習プリント②、学習プリント③(資料3・4参照)を使用する。

「自分らしく着よう」(学習プリント③)を配布し、課題を記入する。

活動方法は、トレーシングペーパーを用いて写真の上から衣服交流で得たアドバイスをもとに新たな衣服を書くなど工夫し着色する。その後トレーシングペーパーを切り取り写真に貼り付ける。この方法で行うと前時の自己表現とし

て選択した衣服をもとに、衣服交流で得たアドバイスを具体化し自由に表現が出来るため、自由に衣服を組み合わせた色を変えたりしてさらに「自分らしさ」を追求することが可能と考えられる。

展開途中に写真3のようにビデオカメラとテレビを用いて生徒の作品を紹介し、考案中の生徒の支援とした。



写真3 授業風景 作品紹介

資料8・9は、授業前に描いた「自分らしい衣服」と衣服の交流後に描いた作品を対比し、一連の「自分らしい衣服」の推移を示したものである。

資料8の生徒作品は、白い上着を重ねたデザインを表現している。「自分らしく着よう」(学習プリント③)の生徒の記述から、暑さ調節が出来るように工夫したことが分かる。また記述の中には内に着ているTシャツの柄を見せているところが自分らしさのポイントであると記される。ここから、自分の今まで持ち続けていた「自分らしさ」を保った上、新たな自分らしさを見つけようとしたことが分かる。資料9は、上衣の色を変え、柄をつけた作品である。



資料8 生徒作品



資料9 生徒作品



生徒の記述から、前回自分が着用していた衣服の問題点を改良し色を変えようとしたことが分かる。また、友人のよさや、他者からの評価により柄をつけ、様々な視点から「自分らしさ」を見つめようとしていることが分かる。その他、ズボンの上にスカートを重ね着し帽子を被らせた作品もあり、生徒の記述から、重ね着としてのスカートは前回着用していた自分の衣服の色のバランスなどを考え、帽子については、実生活で購入したいと願っているものを、実際の生活と結びつけて「自分らしさ」の追究を行う事例もみられた。

「自己表現」としての衣服の交流(学習プリント 活用)

全体交流としてビデオカメラとテレビを用いてグループで一人の作品を紹介し、各々の活動を振り返った。その「自分らしく着よう」(学習プリント③)における本時のまとめを自由記述で記入した。

生徒の記述にはA組では「あまり着たことのない色が似合った」「発見があった」「写真を見ることで自分に似合いそうな服や柄が分かった」などの記述が見られ、授業を通して今までの自分を見つめ直し、新たな自分らしさを発見することが出来たのではないかと考えることが出来る。また、「楽しかった」「結構出来た」「気分が変わった」「面白かった」「すごい」との記述が見られた。このことより、『自分らしさの追求』を通して満足感や充実感を得た生徒がいるということが分かる。「日常生活に生かしていきたい」「服を着るときは今回のことを生かしたい」「いつもの生活に生かしていけたらいいなあ」などの記述を見ることもでき、授業内の活動と今後の生活とを結びつけて考えていることが分かる。

またB組では、「上着1枚変えたり、色を変えたりするだけで雰囲気が変わることが分かった」「ちょっとしたことで雰囲気が変わる」「フードを変えることで雰囲気まで変わった」などの記述が見られた。このことより、変えた部分だけではなく全体を見つめて『自分らしさ』を追究することができていたのだということが分かる。また「今回のことを生かしたい」「これからは考えて着たい」「今後も良いところを取り入れていきたい」の記述より授業内の活動と今後の生活とを結びつけて考えていることが分かる。そのなかには「これからは明るめの色を着てみたい」「うまく色・形を調節し、自分にあう雰囲気を作っていきたい」などのように具体的に記述している生徒も見られた。これは、今後の衣生活への展望を考えることが出来ることを示している。「結構出来た」「自分らしく出来てよかった」「合う色が発見できて面白かった」との記述より、『自分らしさの追求』を通して満足感や充実感を得ることが出来た生徒がいる

ことが分かる。

学習プリント③の質問項目1『自分らしさを表現することが出来ましたか』については、「2. まあまあ出来た」との回答が最も多く、次いで「3. できた」が多い。質問項目2『今後の生活に取り入れようと思うことはありましたか』については、「3. あった」との回答が最も多く半数以上を占めている。このことより、実生活と結びつけて「自分らしさ」を追究することができたのではないかと考えられる。さらに、『今後の生活に取り入れようと思う』程度が全体的に高いということもまた考えられる。

質問項目4『社会生活を考えて衣服を選ぶときにどのようなことを考えますか』においては、自由記述であるため複数回答で集計を行ったが、39人中13人が「TPO」や「時と場所」「場所」を考慮して選ぶという記述をした。衣服と社会生活とのかかわりについて定着していた生徒が比較的少ないということが分かる。「色の組み合わせ方」や「バランス」「雰囲気」「自分らしさ」などの記述が多く、授業中の活動内容から自分達を感じた事柄の影響が強いのではないかと考えられる。また、「自分に合いかつ目的に合う服」「目的を考えておしゃれな服」などのように『自分らしさ』と『社会生活とのかかわり』と関連させて考えている生徒もいることが分かる。

(3) 授業内容(3時間目) 「だれでも着易い衣服とは」

1) 授業構想(資料1 ③参照)

2) 活動内容と事例

高齢者など周りの人々の衣生活への関心(学習プリント 活用)

題材 の1・2時間目までは、自分の立場から衣服の選択を捉えていたが、題材 では高齢者や体に障害を持ち自由に市販の衣服選択ができない人々の立場や視点から衣生活を捉えることを試みた。高齢者や体に障害を持つ人々の衣生活については、授業前の調査では「具体的なイメージがもてない」「考えたことが無い」傾向がみられ、授業に積極的に取り組む姿勢は見られない。そのため、以下に示す具体的な資料を通して考えることとした。

車イスの中学生の改良制服の特徴

資料10は、車イスの中学生用改良制服を資料をもとに製作したものである。実物の中学校制服をもとに車イスでも着用できるよう工夫したものである。資料10 1 上着は座ったままでの着衣が可能のように、背面から被る構成であり、前身ごろのボタンのかけはずしは必要ない。下衣の制服ズボンは座位の場合背面が下がるので腰部を高くし、着脱の場合は両側面が開閉し、座ったまま一人で自立して着用できるよう工夫されている。両側面の開閉を可能にするため、ズボンを固定するベルトが付いている。

生徒はこの改良服を観察し、「体の状態に合わせた衣服の形」「どのような状態でも自立して着用できる工夫」「楽に着れる工夫」「外見は市販の制服と同様」「衣服の各部に工夫が見られる」など、改良衣服の特徴を捉え、こうした衣服の役割について考え始めた。



資料10 ① 改良した学生服(上)



資料10 ② 改良した学生服

手腕・肩の不自由な模擬体験をもとにした着装(体験)

展開では自分の体を通して考える段階とし、体が不自由な状態で衣服を着脱する模擬体験を通し、体が不自由な人が感じる衣服の問題点を見つけることを課題とした。以下は展開についての流れである。展開では周りの人々の衣服(学習プリント⑤)を使用する。

体の不自由な状態をグループで1つ模擬体験を行い、その状態で4種類の衣服を着脱する。その結果や気づいた問



資料11 ① Tシャツ



資料11 ② 前開きシャツ



資料11 ③ ポロシャツ



資料11 ④ ハイネック

題点は周りの人々の衣服（学習プリント⑤）に記入する。

体の不自由な状態はパターン1「両手の手先が不自由で利き手のひじの関節が曲がりにくい」、パターン2「両手の手先が不自由で片方の肩があがらない」、パターン3「両手のひじの関節が曲がりにくい」、パターン4「左の肩があがらず、右のひじの関節が曲がりにくい」の4パターンとし、着脱する衣服は資料11に示す「Tシャツ」、資料11に示す「前開きのシャツ（カッターシャツもしくは男子学生服）」、資料11に示す「ポロシャツ」、資料11に示す「ハイネック」の4種類とした。これらの設定は授業者側で行った。

体験方法については、具体的には次の模擬体験を行った。ここでは手先が不自由な状態の体験には軍手を2枚重ねて、その指と指とを縫い合わせたものを使用する。ひじの関節が硬直した状態の体験は新聞紙をひじに巻きつけひもでそれを固定する。肩があがらない状態の体験は布を幅広いひも状にし、安全ピンで体に合わせて固定する。これらを組み合わせてパターン1「両手の手先が不自由で利き手のひじの関節が曲がりにくい」では両手に軍手を着用し、利き手のひじに新聞紙をひもで固定し上述の4種類の衣服を着脱する。同様にパターン2「両手の手先が不自由で片

方の肩があがらない」では両手に軍手を着床し、片方の腕と体を布と安全ピンで固定し衣服を着脱する。パターン3「両手のひじの関節が曲がりにくい」では両肘に新聞紙をひもで固定し衣服を着脱する。パターン4「左の肩があがらず右のひじの関節が曲がりにくい」では左の腕と体を布と安全ピンで固定し、さらに右のひじに新聞紙をひもで固定して衣服を着脱する。

ひじの関節が曲がりにくい体験については、ひもで縛ることは時間がかかり、力を入れすぎるなどしてふざけ、危険な行為につながる可能性があるので配慮するべきであるとの問題点がみられた。また、肩があがらない体験については、安全ピンで固定をすることは危険である。さらに布で腕と体をしっかりと固定する程度が生徒により様々であり、肩があがらない程度が均一にならないのではないかという問題点が生じた。

体験を終えた生徒から随時、黒板に写真4のように貼った表に書き込む。

4種の衣服の着用体験についての交流（表4）（学習プリント 活用）

体験結果について、黒板の表にグループごとに記入した内容は、表4に示す。この表は「体験内容」「服の問題点」「生徒の意見」を示している。

【模擬体験活動の結果】



写真4 模擬体験の発表

表4より「1Tシャツ」において袖に腕が通りにくいとの記述がどのパターンにも共通してみることが出来る。特にひじが通らないとの記述が多く具体的に困難な箇所を指摘していることから集中して体験できたのではないかと考えられる。「2前開きシャツ」においてはどのパターンも共通してボタンの開閉に問題があるのではないかと着目している。「3ポロシャツ」においては、パターン1、パターン2、パターン4ではボタンの開閉の問題に着目していることが分かる。パターン

2では袖に腕を通す際の困難さにも着目している。パターン3では首を通す際の困難さに着目している。後ろに手が回らないとの記述については首や肩にひかかった衣服を手を後ろに回して下におろそうとすることが出来ないという意味と考えられる。「4ハイネック」においてはパターン1、パターン4では袖に腕を通す際の困難さに着目している。パターン1、パターン3では服が広げにくいとの記述が見られる。これは服を着用する際畳まれている衣服を広げる

ことを指すのではないかと考えられる。パターン2,パターン3では首を通す際の困難さに着目している。

全体的には具体的な記述が少ない。着ることができないその理由は記入されているが、『どのように着ることが困難である』のかという記述が少ない。また、『着ていない』との記述が幾つも見られる。これは授業時間の関係で体験することが出来なかったと考えられる。しかし他にも少しではあるが『着れない』の記述がみられたりひじが硬直している状態を体験しているにもかかわらず『ひじが曲がらない』との記述が見られる。このことから考えたい視点が定着せず、課題に関して追究しようとする意識が低かったのではないかと考えられる。

表4 体験後の生徒の記述

3・4時間目生徒のまとめ・A組							
1・Tシャツ		2・前開きのシャツ(カッター)		3・ポロシャツ		4・ハイネックのシャツ	
5班・ひじが曲がらないために服の中に入らない。	8班・腕が通りにくい。	5班・ひじの曲がらないほうが入らない。	8班・ボタンがかえない。	5班・ボタンがかえない。	8班・ボタンがかえない。	5班・着てない	8班・腕が通りにくい。服が広げにくい。
1班・肩が上からならないほうは袖にうまく入らなかった。	3班・着てない。	1班・ボタンがかえない。	3班・ボタンがかえない。ボタンが小さい	1班・袖に腕が通しにくい。	3班・ボタンがかいにくい。	1班・肩が上からならないので首の部分がやりにくかった。	3班・着れた。
2班・腕が通らない。	7班・着れない。	2班・ボタンがかえない。	7班・ボタンがかえない。上のほうが届かない。	2班・首を通すとき腕が曲がらない。	7班・後ろに手が回らない。	2班・くっついて服が広げにくい。	7班・頭のところまで腕が届きにくい。
4班・首と腕が通りにくい。	6班・腕が通りにくい。	4班・ボタンがかえない。ひじが曲がらない。	6班・ボタンがかえない。片手だから	4班・伸ばしにくい。	6班・ボタンがかえない	4班・腕を袖に通しにくい。	6班・腕が通らない。

黒板の表に記入後、授業者が上記の表の赤い文字の部分(上述した、服の問題点を考える上でのポイント)を示し、体験結果を見直すことにする。授業時間の関係から特に「2前開きシャツ」について考えることとした。表4より『ボタンがかえない』という記入からどのパターンも同じ理由でボタンを閉めることが出来なかったのかと考えた。その結果パターン2では「ボタンが小さいため」、パターン3では「上のほうのボタンまで手が届かなかったから」、パターン3では「片手しか使うことが出来なかったから」などの意見が得られた。

パターン2のグループより得られた「ボタンが小さい」という回答より資料12のようにボタンを大きくしてみた資料を提示する。同様にパターン4のグループより得られた回答から「片手でも出来るようにする工夫」から資料12のようにボタンをマジックテープにした資料を提示する。パターン3に関してはどのような工夫をすればよいかを検討した。また、なぜ前掲の資料10,資料10,資料12,資料12などの工夫が必要なのかについて意見交流し、「誰にとっても豊かで快適な生活」を送っていくための条件について考えた。

生徒の記述には「ボタンを閉めるなどの細かい作業は難しい」「ボタンのあるものは留めにくいので何か違うもので



資料12 ① 改良衣服 I



資料12 ② 改良衣服 II

代用するべき」色々着にくいところがあってこうしたほうがいいなあと思うところがある」などの記述のように体験から工夫を考えようとする意識が高まっていることが分かる。また「服の工夫は障害のある人を助けている」「不自由な人のための工夫がもっと増えるといい」などのように衣服の工夫に対して目を向けその大切さに気づきをしている生徒がいることが分かる。また、「ユニバーサルファッションがあることには驚いた」との記述が見られる。これからユニバーサルファッションに対して興味・関心を抱いていることが分かる。

改良衣服の提示(4時間目の衣服考案に向けての準備)

表4をもとに、課題を追求する。まず「2前開きシャツ」

についてボタンに視点を絞って進める。何故ボタンを留めることができなかったのか各グループで検討する。パターン2の7班では「ボタンを留めることが出来た」が「使える指を無理に使った」とめと分析した。パターン3では「手が首に近いほうのボタンに届かないから」、パターン4では「片手でボタンを留めることは困難であったため」と分析。そこから「どうしたらボタンを留めることが出来るようになるか」を検討した。生徒の回答にもとに、授業者が用意した実際に工夫を施した衣服を提示しながら衣服の工夫について考える。生徒からは「ボタンがなければいい」「ボタンを低い位置につけるといい」「片手が動かならばチャックなどにすると片手でも出来る」「穴とボタンを大きくすれば手が動きにくくても片手でもやりやすい」の意見をもとに資料13①、資料13②の改良服を提示した。

また「3ポロシャツ」や「2前開きシャツ」も同様に、生徒の意見をもとに授業者が製作した改良衣服を提示しながら衣服の工夫について考える。生徒から「チャックで全開にしてしまう」との意見から資料13③のように、脇をチャックにした資料を提示した。

最後に「4ハイネック」について考えると、「首を通す時間がかかる」との記述が多く見られた。ハイネックの場合の改良点として、「首をチャックにすればいい」との意見から、資料13④のようにハイネックの後ろ側の首から腰の辺りまでをチャックとした資料を提示した。



資料13 ①



資料13 ②



資料13 ③



資料13 ④

(4) 授業内容(4時間目) 「発展 快適な衣服を考案してみよう」

1) 授業構想(資料1 ④参照)

2) 活動内容と事例

障害をもつ方の衣生活の手記「装いは自己表現」

本時で相手の立場に立った衣服の考案に取り組むため、装いのバリアフリー(学習プリント⑦)を使用する。

ここでは、手記「装いのバリアフリー」(内容は前掲)を読み感想を書く。

装いのバリアフリーに記述された生徒の感想は「体の不自由な人でもおしゃれがしたいという気持ちがある」「体の不自由な人も自分達と同じように服を選ぶ自由はある」「体の不自由な人も私達と同じように自分らしさがある」などが見られた。このことから体験だけでは隠されていた体の不自由な人の生の気持ちを知ることができたのではないかと考えられる。A組生徒の記述には、「障害者でもおしゃれがしたい」「体の不自由な人でも流行の服が着たいと思っている」「障害がある人もおしゃれしたい気持ちは一緒」などが見られた。体験だけでは気づくことが出来なかった障害者の方の気持ちに気づくことが出来たのではないかと考えられる。また「かわいそう」「複雑」などの基本的感情を記述している姿も見られる。「不自由な人でも着ることが出来る服を作る」「誰でもが簡単に着ることが出来る服があるといい」などのように誰でもが楽しめるファッションに対して意欲的に考えていることが分かる。

B組では「かわいそう」「残念」「寂しい」などの記述が多く見られる。このことから障害者の方に対する素直な想いが分かる。また「誰でも着られる服が増えるといい」「誰でも着れる、簡単に着れる服を作ってほしい」との記述から、誰でもが楽しめるファッションに対して意欲的に考えているのではないかと考えることが出来る。

体験を通して着脱が困難である衣服の問題点と手記を通して障害者の方の気持ちを知った生徒の上述のような思いを課題につなげ、今後のよりよい生活に対して展望する姿を見ることが出来た。

4種の市販衣服の改良案(学習プリント 活用)

ここでは写真5のように、「そで」「ボタン」「首」「肩」「前後」「首」のカードを生徒の意見に基づいて貼り、体の



写真5 授業風景

不自由な人が感じる衣服の問題点はどの点であるのか観点を明らかとする。そこで、体験したことから感じられた服の問題点を整理し、衣服の問題点を改良するための工夫を考える。

特に、4種類の衣服のなかで最も着脱が困難であったと考えられる衣服について問題点を改良し工夫する。それぞれ4種類の衣服の絵を描いた画用紙にイラストで改良した衣服の工夫を書き加える。その隣にそのポイントを文字で書き説明を加える。改良するためのヒントとして、改良した学生服や大き目のボタン、マジックテープ、ファスナー(もち手の大きくなったものなど)を提示しヒントがほしいグループが観察を

ることが出来るようにする。

表4よりパターン1の5班は「4ハイネック」の改良,工夫を考える。前回の体験よりハイネックを着用するとき首を通す際の問題に着目した。そこで首の脇の部分のスナップボタンを2個ずつつける。また肩の部分マジックテープとして首から肩にかけて前後に開くようにした。同じくパターン1の8班は前回の体験より「2前開きシャツ」についてボタンの開閉の問題に着目した。そこで、着用しても普通に見えるようにボタンを飾りボタンとしてボタンホール側に縫いつけ、マジックテープで服を開閉することにする。パターン2の1班は前回の体験より「2前開きシャツ」についてボタンの開閉の問題に着目した。ここから、前のボタンは留めたままにし、後ろの真ん中を首の付け根から下までファスナーとした。このファスナーにはひもを持ち手にくくりつけ、下に引っ張ることでファスナーを閉めることが出来るようにする。そのひもは様々な工夫で着用しているときは見えないようにする。同じくパターン2の3班でも前回の体験を通してボタンの開閉の問題に着目した。ここからボタンはそのまま飾りボタンとしてボタンホール側に縫いつけ、マジックテープを利用して服を開閉することが出来るようにする。片手でボタンを取り扱うことが難しい場合に有効であると考えられる。パターン3の2班では「4ハイネック」の首を通すときの問題点について着目した。そこで前の中心部を首から下まで全てチャックにし前開きの服のように着ることが出来るようにする。また腕の部分も脇の下辺りから手首までマジックテープで開閉できるようにひじが曲がらなくとも着用できるようにしている。同じようにパターン3の7班では「2前開きシャツ」のボタンの開閉の問題に着目した。そこでボタンの部分を全てマジックテープにした。パターン4の4班では「2前開きシャツ」のボタンの開閉の問題について着目した。そこで、ボタンについては一番上のボタンのみマジックテープとし残りのボタンについてはすでに留めておき被り物のようにする。そこで右の脇下と腕のつけ根から手首までマジックテープ、もしくはファスナーとする。また左はウエストの辺りから裾までを同様にマジックテープかファスナーとする。この工夫については、うまく使うことが出来ない体を十分にカバーしたものであり、自分たちの体験を活かすことが出来ていると考えられる。同じようにパターン4の6班は「1Tシャツ」の袖に腕を通す際の問題点に着目した。そこで後ろ側に首の付け根から裾にかけてファスナーとする。

表5にも衣服改良案の事例を示した。

誰にとっても快適な衣服とは

1時間のまとめと4時間の衣服の学習のまとめとして周りの人々の衣服(学習プリント⑥)にまとめを記入した。生徒の記述では「誰でも少し工夫をすれば好きな服を着れるようになる」などの記述が見られた。4時間の活動を通して誰でもが楽しめる衣生活についての意識が高まったのではないかと考えることが出来る。また「一人一人の個性がある。体の不自由な人にだって個性がある」などの記述も見られ、1・2時間目の題材「自分らしく着よう」で気づいたことと3・4時間目の題材「周りの人々の衣服」で得たことをあわせて考えることが出来る。「ファッションはいらなと思っていただけだと思った」との記述が見られた。衣服の授業を通して衣生活に対する考え方の変化があったと考えられる。また、「ユニバーサルファッションが増えていくといい」「工夫をしてみんなが着たい衣服を着れるようにしてほしい」「ユニバーサルデザインやユニバーサルファッションでみんなが楽しめるといい」などの記述が見られた。ここからユニバーサルファッションや衣服の工夫について興味・関心を持ち、今後誰でもが楽しめる衣生活について展望しているのではないかと考えられる。また「自分がよければそれでいいのではなく、他の人のことを考えたり自分らしさを考えることが大切だと思う」「服は好きな色・形を選べるけれど、そうではない人もいて、そのことを補うためにユニバーサルファッションがあると思う」などの記述からは、自分の衣生活につい

表5 生徒の作品・工夫、改良点

問題点	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し	生徒の工夫や手直し
肩の縫い目が平直で肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか
肩の縫い目が平直でない	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか	ボタンがはかばか

て考えると同時に周りの人々の衣生活についても捉えることができていることが分かる。

また「服はどのような人でも着るものであるからこそ一つ一つ真剣に考えなくてはならないと思う」「自分に合う服は個性やいいところを引き出す力があってそれを誰でもが楽しめるようにしてあるのがユニバーサルファッション」などの記述から服について4時間を通して深くまで追究し、見つめることができたのではないかと考えられる。

(5) 今後の課題 授業分析と検討課題

題材「衣服の選択」を1時間目から4時間目の一連の学習の流れで、課題を発展させた。1・2時間目までは、自分の衣生活を見つめ「自分らしい着方」の追求を課題とし、3・4時間目からは「周りの人々の衣服」とし誰でもが快適な衣生活を送るには自分は何ができるかと考え生活創造の視点で課題に取り組んだ。

こうした授業の学びの推移を捉えるため、以下の2つの側面から検討することが今後の課題である。

- 1) 題材「衣服の選択」の衣服関連用語の出現推移から捉えた「衣」に関する学びの発展
- 2) 題材「衣服の選択」における生活創造能力の育成の可能性

上記の側面から捉えた授業分析結果については、次報で述べる。

4. まとめ

家庭科で育成する人間らしい生活創造の能力育成を目的とし、現在中学校で取り組まれている題材「衣服の選択」の中の「自分らしい着方」をより創造的に取り組める授業構想を実践(1・2時間目)、さらに発展課題として高齢者や体に障害のある人々の立場から自立して着用できる衣服の創造(3・4時間目)を課題とした授業実践に取り組んだ。

本報では、1時間目～4時間までの授業構想の趣旨および授業実践内容の概要、さらに授業内の生徒の活動や配布

した学習プリントの結果について述べた。現行の指導要領では、この題材は衣服の組み合わせについて体験させるに留まっているが、前報で継続した研究テーマである「創造と自己解放」をもとに家庭科の題材を通して人間形成や生活創造能力の育成を目指した学びの要素を取り入れた授業構想を実践した。

1時間目の課題「個性とTPOを考えた衣服選び」では、個性の表現とTPOを考えた「自分らしい着方」をした私服を着装し、クラス内で相互に評価・交流、2時間目の課題「相互交流から探す私に似合う着方」では、前時の着装写真をもとに「色」「柄」「形態」を中心に自分らしい着方やデザインを工夫する活動ができた。

3時間目「だれでも着易い衣服とは」では、高齢者や体に障害を持つ人々の視点で衣生活を捉えるため擬似体験を通して市販衣服の問題点について検討、さらに4時間目「発展 快適な衣服を考案してみよう」では、外観から捉えた衣服のみでなく、衣服の機能や快適性、着脱の容易さなど多面的な要素を考慮し、誰でもが着脱し易い衣服について各自が考案することができた。

こうした一連の学習活動は生活創造の育成に結びつくものと考えられる。次報では、こうした授業内容の経過に伴う学びの特質を捉えることを目的に授業分析を実施する。

このたびの授業実践にご協力頂きました岐阜市内k中学校の皆様には誌面にて深謝申し上げます。

注釈

- 1) 技術・家庭科学習指導書編集委員会編『技術・家庭学習指導書[家庭分野]実践編』開隆堂出版株式会社、2001、61頁参照。
- 2) 渡辺聡子「衣生活と介護」医歯薬出版株式会社 2002、12

資料2 学習プリント①

資料3 ① 学習プリント②

資料3 ② 学習プリント②裏面

資料4 ① 学習プリント③

資料4 ② 学習プリント③裏面

資料5 学習プリント④

資料6 学習プリント⑤

資料7 学習プリント⑥